

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	—
主な取組	外国青年招致事業			
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
外国語教育の充実・改善を図るとともに、地域レベルの交流推進を図ることを通して諸外国の相互理解を深め、国際化を推進するために、外国語指導助手（ALT）をすべての県立学校へ配置、または訪問する。		49名 配置数				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					
		外国語指導助手を全ての県立学校へ配置				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 外国青年招致事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	直接実施	15,862	216,731	229,019	191,053	220,959	221,050	県単等	OR3年度： 特別支援学校を含む県立学校75校にて54名のALTを活用し、語学指導等にて生徒のコミュニケーション能力の向上を図った。 OR4年度： 特別支援学校を含む県立学校75校にて46名のALTを活用し、語学指導等にて生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。
予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		OR3年度： OR4年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	配置人数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	49名	50名	50名	54名	54名	49名	100.0%	220,959	順調	県立高等学校59校、特別支援学校16校に54名のALTを配置(訪問含む)し、生徒の外国語コミュニケーション能力の向上と地域レベルの国際交流の推進を図った。
活動指標名					R3年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
	—	—	—	—	—	—				ALTの配置により、外国語教育の充実・改善を図ると共に、ALTが地域の行事に参加するなど地域レベルの交流を行ったことにより、諸外国との相互理解を深めることができた。 活動指標の配置計画は、令和3年度の計画値49名に対し実績値54名となり、順調である。
活動指標名	—				R3年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
・パフォーマンステスト実施回数 of 目標達成するために、評価ルーブリックに基づいた適切な評価方法について研修を行う。						・パフォーマンステスト of 評価ルーブリックについて、英語教諭とALTへオンライン研修会を持ち、周知を図ることができた。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・多くの学校でALTの活用が図られた結果、ALTの増員を求める学校が増加している。

○外部環境の変化

・「生徒の英語力向上の推進について(通知)」を受けて、「生徒の英語力向上推進プラン」を踏まえた各都道府県の目標設定および達成状況を公表している。沖縄県として、生徒の英語力向上に資する目標設定をし、達成状況は把握している。特にパフォーマンステスト実施回数が目標を達成できていないため、ALTのさらなる活用を含め各研修で周知している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ALTのニーズの高まりに答えられるよう十分な配置人数の確保と、授業内容の充実やALTの授業力向上など活用体制の確立を図る必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・パフォーマンステスト実施回数目標達成するために、評価ルーブリックに基づいた適切な評価方法等について継続的に研修を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	設置校数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	59校	60校	60校	60校	59校	30校	100.0%	6,269	順調	平成30年度の新規計画以降、全日制・定時制の全県立高校60校の2年生に対し、英検IBAテストを実施している。外部専門家によりテスト結果の分析を行い、全てのテスト実施校が参加するフィードバック説明会を開催し、各学校の授業改善に繋げている。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			計画値30校に対して、令和3年度の英検IBAテスト実施校は、全県立高校59校であり、順調に進捗している。新型コロナウイルスの影響により中止となったフィードバック説明会の代替としてテスト結果の検証に係るアンケート調査を実施し、テスト結果を各学校における授業改善に活用した。
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<p>・英検IBAのテストと学校ごとに実施するパフォーマンステストの結果から生徒の英語力の測定精度を向上させる方法についてフィードバック説明会等での共有を図る。</p>						<p>・新型コロナウイルスの影響により中止となったフィードバック説明会の代替として実施したアンケート調査では、過去に実施したテスト結果との比較から生徒の技能別傾向等に関する理解を深め、英語指導の充実につながった。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・大学入試に活用できる英語資格・検定試験が複数あることに伴い、学校ごとに採用する資格・検定試験が多様化している。

○外部環境の変化

・2001年に欧州評議会が発表したCEFRが外国語の学習、教授、評価のための参照枠として日本における認知度が高まり、また、英検を含めた各資格・検定試験との対照も可能となった。

・大学入試における英語資格・検定試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の令和2年度からの導入が見送られることになった。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・新たな国際標準規格CEFRが普及し、CEFRに対応する英語資格・検定試験が多様化することにより、英検以外の資格・検定試験の受験者数増加が予想されるため、英語教育の充実及び実践的なコミュニケーション能力の向上を図る上で、CEFRによる英語能力の評価も取り込んだ取組のあり方を検討する必要がある。

・また、令和4年度の新学習指導要領全面実施に向けて学校においてはパフォーマンステストによる英語4技能の総合的な評価のあり方を確立する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・英検IBAのテストと学校ごとに実施するパフォーマンステストの結果から生徒の英語力の測定精度を向上させる方法について研修会等での共有を図る。

・本事業は令和3年度で終了するが、後継事業「英語小中高大連携推進事業」において引き続き外部試験を活用して生徒の英語力に関する客観的なデータに基づく授業改善及び生徒の英語力向上の取組を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	—
主な取組	小中高大が連携した英語教育研究(英語立県沖縄推進戦略事業)			
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
英語小中高大連携委員会の取組において、他の模範となる優れた授業力を備えた教員として「英語授業マイスター」の認定・活用、校種間連携を目的として「英語担当中高連携研修会」等を実施する。		6回 実行委員会の 開催数				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課 【098-866-2715】					
		小中高大連携実行委員会の開催、英語教育の課題についての研究を実施				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 英語立県沖縄推進戦略事業							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：「英語授業マイスター発掘プロジェクト」 「英語担当中高連携研修会」を実施。	
県単等	直接実施	2,559	2,740	2,717	250	366	681	県単等	OR4年度：令和3年度で事業終了。後継事業「英語小中高大連携推進事業」において、校種間連携による授業力向上の取組を継続する。	

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：	
									OR4年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	実行委員会の開催数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	4回	8回	6回	6回	9回	6回	100.0%	366	順調	小中高大英語教員の連携により、授業改善や児童・生徒の英語力向上を目的に、英語小中高大連携委員会の外部有識者が指導助言者として参加する中高連携研修会(6地区)や英語授業マイスター(英語優秀教員)の認定事業を実施している。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から委員会についてはオンライン会議を実施し、中高連携研修会やマイスター教員の認定について協議した。中高連携研修会は、全地区でオンデマンド実施。英語授業マイスターは2名を新規に認定した。今後、マイスター教員による公開授業等を通して英語授業の改善を図る。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ICT活用によるコロナ禍に対応した研修の持ち方を工夫する。 実行委員会や研修会等において、沖縄県英語教育改善プランの目標値達成に向けて、英語能力判定テストと各学校でのパフォーマンステストの結果を活用した生徒の英語力評価のあり方について研究協議を行う。 						<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に対応した研修方法として、県内6地区の県立中学校・高校及び公立中学校の英語教員を対象としたオンデマンド研修を実施できた。 委員会の取組として実施した中高連携研修会において、沖縄県英語教育改善プランの目標値達成に向けて、パフォーマンステストを組み込んだ英語授業のあり方について協議を行うことができた。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・英語教育充実のための全校種横断的な取組であること、委員会・研修・授業観察等を実施するため活動量が多いことなどから、委員体制を継続的に充実させておくことが重要である。

○外部環境の変化

- ・新学習指導要領が小学校令和2年、中学校令和3年、高校令和4年に実施され、学習指導要領の示す英語教育の実現にむけた取組を各校種において行っている。
- ・大学入試における英語資格・検定試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の令和2年度からの導入が見送られた。
- ・コロナ禍で多人数が参加する合同研修等の実施が難しい。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・コロナ禍における校種間連携の強化、生徒の英語力向上のための効果的な研修の持ち方を工夫する必要がある。
- ・新学習指導要領実施に関する校種ごとの課題や校種間連携のあり方、また、今後の大学入試改革を踏まえた高大接続のあり方等について委員会で協議を行い、取組に反映させる必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・生徒の英語力向上を実現する上で、英語教員の指導力向上の取組は重要であり、令和4年度より新規に立ち上げる「英語小中高大連携推進事業」において、ICT活用によるオンデマンド研修に引き続き取り組む。
- ・沖縄県英語教育改善プランの目標値達成に向けて、新学習指導要領の趣旨を踏まえた小学校から高校まで一貫した英語授業のあり方について英語担当者間の共通理解を図る。

様式1(主な取組)

活動指標名	留学派遣者数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	99人	85人	87人	0	0	100人	0.0%	0	未着手	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和2年3月、派遣生の安心・安全の観点より、事業（R元年度派遣）を中止し、全派遣生の帰国。さらに、R2年度及びR3年度は、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大であったため、生徒の安全・安心の観点より事業を中止。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>活動指標の「留学派遣者数」が計画値に達しなかった理由は、R3年度は、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大であったため、生徒の安全・安心の観点より事業を中止したため。</p>
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<p>・短期研修派遣を通して、留学に対する意欲の拡大が図られるため、短期研修参加者に、事前・事後研修等で留学の応募を勧め、意識の高揚を図る。</p>						<p>・R3年度の短期海外研修事業は、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大であったため、生徒の安全・安心の観点より派遣を中止したが、生徒の国際理解教育の取組として、オンラインによる代替事業を実施した。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・約1年間の海外留学において、派遣生は異文化への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに対する不安がある。

○外部環境の変化

- ・新型コロナウイルス感染症の世界的流行（感染症の世界的拡大）がある。
- ・国際情勢の変化等による治安上の問題がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・派遣生は留学生活に必要な異文化への適応や外国語でコミュニケーションを図ることに不安があるため、生徒の海外派遣・交流に係る他の取組との連携により異文化コミュニケーションスキル及び外国語運用能力の向上を図る必要がある。

・外務省等からの迅速な情報入手、派遣先の受入団体との連携により、派遣生の安全確保に向けたプログラム運営体制を維持する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・R4年度から新規に立ち上げるオンライン国際交流プログラムへの参加を促し、留学前に異文化コミュニケーションを実際に体験する機会を提供する。
- ・新型コロナウイルスの感染状況及び国際情勢の変化を注視し、生徒の安心安全の観点から適切な派遣先を決定する。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	50人	40人	40人	0人	40人	40人	100%	8,766	順調	アメリカの州立大学へR3年7月から8月に約3週間、高校生40人を派遣し、語学、リーダーシップ研修を通してアメリカの大学生活を体験する予定であったが、新型コロナの影響により、オンラインによる代替研修を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案								反映状況		
<ul style="list-style-type: none"> ・現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した実践的な英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての研修を実施。 ・実践的な語学力を測る英作文試験や、積極性、コミュニケーション能力を測る面接試験内容の構築。 ・事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン（オンデマンド）研修等を実施する。 								<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修において、アメリカ、モンタナ州立大学のオンライン授業を受講し、現地大学生やホストファミリーとのオンライン交流を通して、英語運用能力を高め、異文化理解も深めた。 ・実践的な語学力を測るため、英語作文やプレゼンテーション審査を現地大学の講師が行った。 ・新型コロナの影響により海外派遣ができなかったため、オンラインによる代替研修を実施した。 		



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・短期研修において、語学力やグローバルリーダーとしての主体性を養うためには、渡航前の事前研修を重点的に実施する必要がある。

○外部環境の変化

・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意し、海外派遣については判断する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・オンラインを活用した事前研修において、現地大学で行う学びの先取りやホストファミリーとの交流等を行い、渡航した際には、円滑かつ期間を集中させた研修を実施する必要がある。

・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、研修先大学および委託先と連携を図り、オンラインを含む研修方法を準備する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・オンラインを活用した事前研修を充実させ、実際に渡航した際のコミュニケーション・エラーを軽減し、円滑かつ期間を集中させた研修を実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	25人	20人	0人	0人	25人	25人	100%	14,484	順調	オーストラリアへR4年2月に11日間、高校生25人を派遣し研究機関等の訪問、現地高校大学等での授業参加などを通して理系分野の人材育成の基礎作りを図る研修を実施する予定であったが、新型コロナの影響により、オンラインによる代替研修を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										R3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、海外への渡航はできなかったが、オンラインでの代替研修で、現地研究者の講義受講や現地高校生・大学生とのオンライン交流等を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地研修をより深い学びへと繋げるため、事前研修で探求テーマに取り組む「サイエンスイマージョン研修」を実施。 ・ 実践的な語学力を高めるため、生徒選考時における英語面接試験内容および事前研修での語学研修方法を構築。 ・ 事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン（オンデマンド）研修等を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン研修において、現地研究者の講義や現地高校生・大学生との意見交換等を行い、個人およびグループの探究テーマに取り組み、発表した。 ・ 実践的な語学力を高めるため、ファシリテーター役として本事業を経験した大学生を活用し、英語を使つての交流や発表方法のスキルアップを図った。 ・ 新型コロナの影響により海外派遣ができなかったため、オンラインによる代替研修を実施した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・現地研究者への質問が円滑に行えるよう、ファイシリテーター兼通訳をおいた。また、現地高校生との交流は4～5名のグループで行い、研修の前半および後半に複数回機会を設けるなど、主体的に英語で話せるような研修の場面設定が必要である。

○外部環境の変化

・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意し、海外派遣については判断する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・オンラインを活用した研修によって、多くの高校生が海外と繋がるのが可能となるため、国際交流の機会拡充を行う必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・令和3年度で終了。活動内容の一部はアジア高校生オンライン国際交流事業等で実施予定。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	20人	20人	0人	—	20人	20人	100%	7,090	順調	中国・上海へR4年2月から3月に13日間、高校生20人を派遣し、異文化体験や現地高校生との交流を行い、中国語の習得および中国文化への興味関心を高める研修を実施する予定であったが、新型コロナの影響により、オンラインによる代替研修を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
活動指標名					R3年度					
実績値										
活動指標名					R3年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 事前研修において、中国の文化や語学力の向上を図る研修内容を構築し、現地研修後には語学力の達成状況を確認するため、各派遣生徒のレベルに応じた中国語検定取得を目指す。 事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン（オンデマンド）研修等を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> オンラインによる中国語講座を実施し、基礎的な会話や簡体字を学んだ。また、グループ別に現地高校生とのオンライン交流を実施し、言語力の向上に努めた。 新型コロナの影響により海外派遣ができなかったため、オンラインによる代替研修を実施した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・短期研修において、語学力やグローバルリーダーとしての主体性を養うためには、渡航前の事前研修を重点的に実施する必要がある。

○外部環境の変化

・テロや感染症等、世界各地での治安および健康上の問題に留意する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・オンラインを活用した事前研修において、現地研修先で行う学びの先取りや現地学生との交流等を進め、渡航した際には、円滑かつ期間を集中させた研修を実施する必要がある。

・外務省等の海外渡航情報や大使館等からの情報入手を迅速に行いながら、研修先大学および委託先と連携を図り、オンラインを含む研修方法を準備する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・オンラインを活用した事前研修を充実させ、実際に渡航した際のコミュニケーション・エラーを軽減し、円滑かつ期間を集中させた研修を実施する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト			
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
沖縄とハワイ双方向において絆を深め、先の大戦によって焦土化した双方の悲惨な状態からの復興と平和、将来の展望等について、共に学び考える機会を設けることで、自国と他国の歴史や文化を真に尊重出来る、21世紀の国際社会に貢献する人材の育成を図る。		25人派遣数 約25人受入数				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁県立学校教育課	【098-866-2715】				
		沖縄県高校生の派遣及びハワイ州高校生の受け入れによる交流を実施				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名	沖縄県高校生海外雄飛プロジェクト						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：ハワイ州高校生を25名受け入れる予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン交流に切り替え実施した。	
県単等	直接実施	411	496	631	0	29	164	県単等	OR4年度：ハワイ州高校生を受け入れ、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、沖縄文化体験等を実施する。	
予算事業名	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業						R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算額	R3年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：ハワイ州へ高校生を25名を派遣する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン代替研修を実施した。	
一括交付金(ソフト)	委託	9,920	9,771	9,771	0	10,681	9,186	一括交付金(ソフト)	OR4年度：ハワイ州へ高校生25名を派遣し、ホームステイ、学校生活体験、平和学習、学校訪問、ハワイ文化体験、ツーリズム研修等を実施する。	

様式1(主な取組)

活動指標名	受入数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
	10人	13人	16人	0人	16人	25人	64.0%	10,710	概ね順調	ハワイ州高校生を25名受け入れる予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン交流に切り替えた。ハワイ高校生と沖縄高校生がペアとなり、オンラインで文化交流を行い、その体験をまとめて発表した。		
活動指標名	派遣数				R3年度					R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
	25人	25人	25人	0人	25人	25人	100.0%	10,710	概ね順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 ハワイ州へ高校生を25名を派遣する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン代替研修を実施した。 ハワイ沖縄連合会と連携し、沖縄とハワイの友好の歴史や平和学習、ハワイ州議会議員による講話及びオンラインディスカッションを含むツーリズム研修、ハワイ高校生との交流等を実施した。		
活動指標名	-				R3年度					R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B					
	-	-	-	-	-	-	-	10,710	概ね順調			
(2)これまでの改善案の反映状況												
令和3年度の取組改善案						反映状況						
<ul style="list-style-type: none"> ・ハワイ沖縄連合会、委託業者との連携強化を図り事前オンライン交流を導入するなどし、受入人数の増加を目指す。 ・派遣については、事前研修にオンラインを取り入れハワイの観光産業関係者より講話等を行い、現地では実地研修を主とするよう工夫する。 ・新型コロナウイルス感染症等の影響で受入や派遣が出来ない場合は、代替研修としてオンライン研修等を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、受入及び派遣は中止となったが、ハワイ沖縄連合会と連携し、オンラインに切り替えて代替研修を実施することができた。 						



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ハワイ州から参加する高校生の日本語力に差異がある。
- ・観光立県を標榜する本件の観光産業を担う人材の育成を目的の1つとしていることから、関連するプログラムの拡充が必要である。

○外部環境の変化

- ・為替の変動によって、ハワイ州高校生の参加に影響が出ることがある。
(参考) H24:21名 H25:12名 H26:16名 H27:15名 H28:12名
H29:10名 H30:13名 H31:16名
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が出来ない状況がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ハワイ州高校生に沖縄の文化や歴史をより理解してもらうため、事前オンライン研修を充実させる必要がある。
- ・派遣する際に座学だけでなく実地研修を充実させるなど、観光産業に関するプログラムを拡充する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ハワイ沖縄連合会、委託業者との連携強化を図り事前オンライン交流を充実させるなどし、受入人数の増加を目指す。
- ・派遣については、事前研修にオンラインを取り入れハワイの観光産業関係者より講話等を行い、現地では実地研修を主とするよう工夫する。
- ・新型コロナウイルス感染症等の影響で受入や派遣が出来ない場合は、代替研修としてオンライン研修等をさらに充実させ実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	20人	20人	20人	0人	20人	20人	100.0%	4,777	順調	書道分野で活躍する高校生20名をコロナ禍で実際に台湾に派遣することはできなかったが、オンラインを活用した交流や講師を招聘しての実技指導を行った。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。 ・これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。 						<ul style="list-style-type: none"> ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、オンラインや対面式を活用した代替研修につなげることができた。 ・コロナ禍で行動が制限される中、多くの人材を活用し、事前研修、本研修、事後研修を通して生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努めた。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 当事業を実施するにあたり、派遣生徒には英語コミュニケーション能力が求められる。
- ・ 県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。

○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症等による感染拡大防止のため、航空便運航状況など渡航制限がありうる。
- ・ 燃料費高騰による航空運賃の値上げが想定される。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 派遣生徒の英語コミュニケーション能力を高めるために事前研修を充実させる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症状況を注視し、本研修の派遣時期を検討する。
- ・ 海外派遣が困難な場合、オンデマンド等の交流や県内での文化研修などの代替研修を行う。

4 取組の改善案 (Action)

後継事業においては

- ・ 本研修を効果的に実施できるように事前研修において、語学力向上の研修を充実させる。
- ・ 高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	4-(1)-イ	世界と共生する社会の形成	施策	① 国際感覚に富む人材の育成
			施策の小項目名	—
主な取組	芸術文化国際交流(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			
対応する主な課題	①世界と共生する地域の形成のため、児童・生徒に対する英語教育の充実、各分野から海外の学校へ留学生や研修生を派遣するなど、国際感覚に富む創造性豊かな人材の育成に取り組む。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
本県の高校生をドイツ等へ派遣し、諸外国の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。		54人				
		派遣人数				
実施主体	県					高校生を海外へ派遣し、文化交流を実施
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課		【098-866-2731】			

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度： 美術・工芸、音楽、郷土芸能分野で活躍する高校生をオンライン等による代替研修を実施した。	
一括交付金(ソフト)	委託	25,927	25,234	30,222	0	11,389	18,215	一括交付金(ソフト)	OR4年度： 郷土芸能分野で活躍する高校生16名をハワイに派遣し、芸術文化交流・就業体験を実施する。後継事業：高校生伝統芸能分野海外就業体験事業	
予算事業名							R4年度		令和3年度活動内容と令和4年度活動計画	
主な財源	実施方法	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算額	R3年度決算見込額	当初予算額	主な財源	OR3年度：	
									OR4年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	54人	50人	44人	0人	44人	54人	81.0%	11,389	概ね順調	美術・工芸、音楽、郷土芸能分野で活躍する高校生44人をコロナ禍で実際に海外へ派遣することはできなかったが、オンラインを活用した交流や講義、講師を招聘しての実技指導を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										派遣人数は令和元年度から美術・工芸部門をそれまでの台湾20人からドイツに派遣するにあたり14人に変更したため減少となっている。
活動指標名					R3年度					オンライン交流においては、発言を求められる機会が増えたこともあり、活発に発言するなどコミュニケーション能力の高まりが生徒にみられた。
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。 ・これまでに派遣されたOBや引率教諭、ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりとし、目的意識や達成感の高揚に努める。 						<ul style="list-style-type: none"> ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、オンラインや対面式を活用した代替研修につなげることができた。 ・コロナ禍で活動が制限される中、多くの人材を活用し、事前研修、本研修、事後研修を通して生徒各自の目標設定をしっかりとし、目的意識や達成感の高揚に努めた。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 当事業を実施するにあたり、派遣生徒には就業体験等における英語コミュニケーション能力が求められる。
- ・ 県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。

○外部環境の変化

- ・ 新型コロナウイルス感染症等による感染拡大防止のため、航空便運航状況など渡航制限がありうる。
- ・ 現地での就業体験受入事業者の選定が必要となる。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 派遣生徒の英語コミュニケーション能力を高めるために事前研修を充実させる。
- ・ 新型コロナウイルス感染症状況を注視し、本研修の派遣時期を検討する。
- ・ 海外派遣が困難な場合、オンデマンド等の交流や県内での文化研修などの代替研修を行う。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 本研修を効果的に実施できるように事前研修において、職業理解、実用的な英語コミュニケーション能力向上の研修を充実させる。
- ・ 高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い本研修、または代替研修に繋げる。